

- | | |
|----------|---|
| 1. 名 称 | 碧雲荘（旧熊本家住宅）門
へきうんそう（きゅうくまもとけじゅうたく）もん |
| 2. 員 数 | 1 基 |
| 3. 住 所 | 長崎県壱岐市石田町石田西触字白水 1 4 8 6 - 1 |
| 4. 構造形式 | 木造、瓦葺一部銅板葺 |
| 規 模 | 間口 7. 6 m、左右袖塀付 |
| 5. 所有者氏名 | 壱岐市 |
| 6. 建築年代 | 昭和 16 年 |
| 7. 価 値 | |

南に見える壱岐水道を見下ろせる高台にあるこの正門は、南の碧雲荘入口から約 70m ほど上りきった場所にある。

門は間口 7. 6 m ほどの大きさをもつ切妻造で、銅板葺の屋根かつ頂部は棧瓦葺を乗せている。平面 3 間 3 戸、直径 1 尺 2 寸の主柱に控柱を伴う構造で、中央に両開き、左右には片開きの扉をそれぞれ付けている。

『熊本利平 ふるさとのあしあと』によれば、「台松の丸太を柱に、戸板は屋久杉の一枚もので特有の年輪は美しく細やかな木目を露わしている」とある。また縁桁は京都の嵯峨野から伐りだされたもので、桂川、淀川を下り大阪で船積されてきたものとある。

主柱の径は 1 尺 2 寸、控柱は端部の中央に角柱を 2 本、中央の背後に円柱 2 本を配し、さらに両端に木製の塀が約一間 45 度の角度で延びている。柱下部には滝を昇る鯉が銅板に刻され把手銅製で当時のまま残されている。

建築後 70 年以上が経っているが全体的に保存状態が良好であり、旧熊本邸のシンボルとして保存していくべきものである。

当門は、登録有形文化財登録基準「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する。

